

一年学年だより

No. 4【7月号】

令和6年7月2日発行

未来への一步を踏み出そう

1学期もいよいよ終わりに近づき、期末考査が始まりました。これまでの努力の成果を發揮し、良い結果を残せるよう頑張ってください。1学期を振り返ってみると、多くの新しい習慣や考え方を身に付けたことでしょうか。これらの経験は、高校生活の基盤となり、今後の成長に大きく寄与するものです。特に、中学生時代とは異なる高校生としての勉強の質と量に慣れることができたことは、大きな一歩です。高校生になると、授業の内容はより専門的で深くなり、自分自身で学びを進める力が求められます。例えば、毎日の復習や分からないところを積極的に質問すること、計画的に学習する習慣を身に付けることが重要です。これらの習慣は、今後の学びにおいても非常に重要な役割を果たします。また、2年次にはコース選択や文理選択という重要な決定が待っています。これらの選択は、大学進学や将来の職業選択に直結する重大なイベントです。自分の興味や将来の目標をしっかりと考え、納得のいく選択ができるように、今から情報を集め、準備を進めておくことが大切です。

期末考査は、これまでの高校生活を振り返り、何ができたのか、何を改善すべきかを見直す絶好の機会です。この機会を活用して、自分の弱点を把握し、次の学期に向けて改善のプランを立てましょう。

以上が、生成AIであるChatGPTを使用した文章です。タイトルも含め、わずか5秒程度で作ってくれました。では、このような文章を作ってもらうためのコツですが、プロンプトー命令文や質問文などを詳細に指示することです。私が上記の文章を作ってもらうために、プロンプトを10個程度指示しました。したがって、具体的で明確なプロンプトを与えなければ、このような文章はできないということです。

さて、高校1年生の皆さん、中央高校で学ぶなら、明確なプロンプトを発信していきましょう！ただ学校に来て、言われたことをやっているだけでは最高の学びは生まれません。皆さんが「志」を持ち、各々のもつ志を表現していくことが、ChatGPTというプロンプトです。みなさんのプロンプトが発信されたとき、中央高校はきっと、中央生にとってChatGPTのように良きサポーターとして、みんなの学びを支援してくれるでしょう。

※ちなみにChatGPTで作った文章には、私の思いであるプロンプトが入っていることをお忘れなく
(103HR 正担任)

みなさん、日曜日の愛媛新聞に掲載の「道標ふるさと伝言」というコラムを御存じですか。愛媛出身の著名人5人が執筆されていますが、その1人は、松山中央高校7期生の松本純子さんです。松本さんは農林水産省広報室で日本初の官僚系YouTubeチャンネル「BUZZ MAFF」の立ち上げ運営に従事、現在は農水省広報誌や交流サイト(SNS)を担当され、フードアナリスト、野菜ソムリエプロとして産地と消費者をつなぐ情報を発信されています。6月16日の「道標」では、愛媛の鱧(ハモ)について寄稿されていました。食いしん坊な私が食べたくなかったのは間違いありません。同窓生の活躍は嬉しい限り。次の回(7月21日でしょうか)も楽しみです。

ところで、鱧というと全国的には夏の京都の印象が強いですが、その多くは伊予灘で水揚げされたもの。鱧に限らず、愛媛にはおいしいものがたくさんありますが、高値で取引されるためでしょう、地元でなかなかお目にかかれないものが増えています。代わって安価な他県産、海外産の農水産物が売り場を占めているのは皮肉な話です。食からは、考えさせられることが多くあります。期末考査が終わればもうすぐ夏休み。普段なかなかできないことにチャレンジするチャンスです。食材の買い物や調理をする機会をもち、調理技術の向上を目指すとともに、食にまつわる様々なこと(生産や流通、経済、環境、家族の家事分担etc.)を考えてみませんか?(103HR 副担任)